

ユニセフや世界の子どもたちに関心のある方はもちろん、
あなたの好きなことをユニセフ活動に生かしてみませんか？

♪ 絵や文章を書くのが好きな方 ♪ 子どもが好きな方
♪ 手作りするのが好きな方 ♪ パソコンが得意な方
♪ 学習会の組み立てと一緒に考えてくれる方などなど

いつでも
ボランティア
大募集!!

[今後の活動予定]

- 11/24(日) 11:00-15:00 くらし国際交流フェスティバル (伯耆しあわせの郷)
 - 12/13(金) 10-12:30 バレンタイン一揆上映会 (鳥取県生協 西部支所)
 - 12/19(木) 14:00-16:00 第12回 役員会 (鳥取県立福祉人材研修センター)
- 2020年
- 1/19(日) 11-15:30 市民活動フェスタ (イオンモール鳥取北)
 - 3/8(日) 10-15:30 かぶりあ祭 (米子市文化ホール)

SDGs
ワークショップを
しています
遊びに来てね!!

第41回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

Hand in Hand

テーマ「すべての子どもに生きるチャンスを」

“手に手をとって”を意味する「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」募金。
県内でも各団体が開催します。詳しくは、事務局まで!!

11/9(土) 鳥取県生協 中部エリア会 倉吉未来中心
11/19(火) 鳥取県生協 西部エリア会 AEON日吉津店
11/30(土) 鳥取県生協 東部エリア会 AEON鳥取北店
12/22(日) ガールスカウト第4団 パープルタウン

※ 各活動は、都合により変更となる場合がありますので、詳しくはホームページをご覧ください。

■ ユニセフライブラリー ユニセフの活動を紹介するビデオ・DVD・パネル・学習教材等の貸出しを行っています。

- パネル
「ユニセフってなあに?」、「わたしも学校に行きたい」
「子どもたちにやさしい地球を残そう」
「私たちの未来に向けた目標(SDGs)とユニセフの取り組み」

- 学習教材
「ユニセフ手帳」、「子どもの権利条約カードブック」他



「子どもの権利条約」の1条～40条までを分かりやすく要約したイラストつきのカードブックです。切り離したカードを使った様々なアクティビティもご紹介しています。ダウンロードはこちら →



- 展示ツール
ネパールの水がめ
マラリア対策の蚊帳
経口補水塩などの支援物資



[展示例 SDGsパネル/支援物資展示]

- 何からはじめる? SDGs



- 鳥取敬愛高等学校 文化祭



鳥取県ユニセフ協会

〒680-1202
鳥取市河原町布袋597-1 鳥取県生協内
TEL/FAX : 0858-71-0970
E/-Mail : unicef-tottori@juno.ocn.ne.jp
URL : <http://unicef-tottori.jp/>



ボランティア登録、資料貸出、
その他お問い合わせ等は、事務局
までご連絡ください。また、どなたで
もお気軽にお立ち寄りください。

月・火・金 10:00~16:00
水 10:00~12:00

鳥取県生協本部 1階になります!

子どもの権利条約 30周年

1989年「子どもの権利条約」は国連で採択、1990年に発効
日本は1994年4月22日に批准し、1994年5月22日に発効



2019年は、日本での子どもの権利条約批准25周年。

2月には国連子どもの権利委員会が日本の取組み状況に勧告を出しましたが、緊急措置をとるべき分野として、差別の禁止、子どもの意見の尊重、体罰、家庭環境を奪われた子ども、リプロダクティブヘルスおよび精神保健、少年司法に関する課題をあげており、以前として日本の子どもたちの状況は厳しいまま。

日本人以外の出自の子ども、移住労働者の子ども、LGBTIである子ども、婚外子、障害のある子どもなどに対する差別防止の措置の強化や、「女子高生サービス」(JKビジネス) など子どもの買春および性的搾取の促進またはこれにつながる商業的活動を禁止することなどを強く求めています。

7/27(土)に開催されたユニセフセミナー2019 in OSAKAでの、浜田進士さんの講演「子どもの権利条約とSDGsに共通する課題とは」から、取り残されている子どもたちの状況を見てみましょう。

▶ バングラデシュのストリートチルドレンと日本のホームレスチルドレン

20年前バングラデシュのストリートチルドレン支援をしていた浜田さん、今の日本のホームレスチルドレンと共通点が多いという。バングラデシュには、帰る家がない、親に捨てられて路上生活をしているストリートチルドレンがいる。日本では、友達や知り合いの家を渡り歩いたり、ネットカフェで寝泊まりをしているホームレスチルドレンがいる。ストリートチルドレンのようにホームレスチルドレンは目立つことは少ないが、どちらも大人からの暴力や貧困など共通する問題を抱え、家に帰れず町をさまよっている状況である。

▶ 現在、関わっている自立援助ホーム『あらんの家』について

自立援助ホームとは、15~20歳までの子どもたちの居場提供、生活支援、就労支援、退居者支援、社会的自立の促進を行う場所。社会的養護を必要としながら、福祉、医療、労働、司法などの制度の狭間で支援を受けられなかった子どもたちを対象としている。

子どもたちは、家庭で受けた心の傷と社会で受けた心の傷の「2つの心の傷」を持って『あらんの家』に入居してくる。親との死別や親からの虐待、ネグレクト、他に、DVやいじめによる迫害体験や発達障害、自傷行為、飲酒・薬物乱用など「発達上の深刻な課題」も複合的に抱えている。また、子どもだけでなく、親自身も迫害体験、中毒・依存症、生活困窮・被虐待体験など複合的な課題を抱えているケースが多く、保護者への支援も並行して行い、関係再構築の必要がある。

あらんの家での生活は、仕事をして利用料を納め、自立のために貯金することがルール。あたりまえの生活ができるように、主体性を保障し(権利を知る)、退居後の支援を大切にしている。

▶ 子どもが変わる瞬間

「社会の一員」「誰かから支えられている存在(安心感)」「誰かの支えになれる存在」、自分自身を「価値ある大切な存在」と思えるようになった時である。誰かたった一人でも自分を否定せずに共にいてくれる関係に気づけば、人は生きることができるようになる。

生きることに絶望していたある男の子が、ちょっとしたきっかけで一人のおばあさんと関わるようになり、おばあさんから頼りにされるようになったことで、自分を肯定し今を生きられるようになっていった。



現在、日本の子どもの貧困率は、7人に1人と子どもを取り巻く環境は深刻である。子どもの権利を尊重した社会を目指して、ラスト5%の子どもたちの声に耳を傾け、子どもに寄り添っていく、そうすれば、子どもは「問題解決の主人公」になり、自分の力を発揮し、そして変わること(変えること)ができる。「誰一人置き去りにしない」SDGsの課題解決に、子どもを中心に置き、一緒に考えていくことの大切さを感じ取れたお話であった。

活動報告

●5/17(金) 募金贈呈式

坂口碧望さん(小学5年生) バイオリンリサイタルでの収益金の一部を募金してくださいました。幼稚園の頃、貧しい子どもたちの映像を見て衝撃を受け、「私のバイオリンで世界の厳しい状況にいる人たちを元気づけたい」という夢を持ち演奏活動をしてられます。



●5/14(月)～18(金) 中学生の職場体験！

河原中学校の職場体験「いきいきワークかわはら」で、2年生3名を受け入れました。



ユニセフ募金活動
(道の駅かわはら)

●6/29(土) エシカルフェスタ (北条農村改善センター)



児童労働展示。
カカオ農園で働く
子どもの人形と
20キロのかごの重
さも体験できる
コーナーと一緒に。

●5/19(日) ラブウォーク in 鳥取 (関金町 旧国鉄倉吉線廃線跡)



初夏を思わせるような日差しの中、約3キロのコースを歩きました。竹林に包まれた線路跡、そして普段は入れないトンネルの中も通りました。ガールスカウトの子どもたちからご当地クイズ、ユニセフボランティアからはユニセフクイズをしながら、楽しいウォーキングとなりました。



●10/5(土) ユニセフLOVEチャリティゴルフ (大山平原ゴルフクラブ)



パネル展

●「アースディ in HOPE TOWN 私から始める 世界が変わる展」



4/12(金)～23(火) ホープタウン米子



●「長谷部誠大使がたどるワクチンの旅」パネル展

5/26(日)～6/9(日)
米子市児童文化センター
6/11(火)～6/22(土)
鳥取県男女共同参画センター
よりん彩
6/28(金)～7/7(日)
ギャラリー鳥たちのいえ



「ユニセフってなあに？」 世界のいろいろな状況にいる子どもたちのことをいっしょに考えてみましょう！！

学校での出前授業をはじめ、ユニセフ活動に関心がある各団体に出向いての学習会を行っています。ユニセフ活動のDVDや、支援物資の実物にも触れることができます。

学習会

■「私たちのめざす未来とSDGsを考える」

7/12(金) 八頭町男女参画センター



(感想) 日ごろ世界レベルで考えることは少ないが、世界に目を向けることで、身近なことが解決することにつながると思った。

■ 夏休みユニセフ学習会「世界の貧困問題について考える」

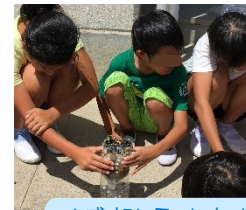
7/26(金) 鳥取会場 鳥取県生協 東部支所
7/29(月) 米子会場 米子市児童文化センター



(感想) 児童労働のことを家族や友達に話したり、世界のニュースにも興味を持って考えていきたい。

■ 美保南児童クラブ「いのちの水ワークショップと浄水実験」

8/7(水) 美保南小学校



(感想) 早く大人になって、困っている国に行き、水道を造ってあげたい。



■ ユニセフボランティア講座

9/1(日) 米子コンベンションセンター

講師：日本ユニセフ協会 石尾 匠 氏



ミャンマーの母子のための栄養支援プログラムの紹介、また支援する村を疑似体験するワークショップも開かれた。保健や医療体制が整っていること、教育の大切さを感じた。

出前授業

■ 溝口中学校 福祉委員会 6/18(金)



■ 岩美南小学校 9/28(土)



■ ユニセフセミナー2019 in 大阪 - ディベート形式によるディスカッションに参加して -

今回用意されたテーマは、①「貧困は社会問題か、自己責任か」、②「産業開発のために森林を切り開くことに賛成か反対か」の2つ。まず、参加者全員が10のグループに分かれ、①と②のテーマで5グループずつに分かれました。そして、グループの中で肯定側と否定側に分かれ、意見の違うもの同士が議論するといった流れです。とりあえず個人的な意見は関係なく、それぞれの立場に立って意見を述べ議論を深めます。その後、テーマごとに意見の違うそれぞれの代表が壇上でパネルディスカッション(5グループなので5人ずつ)をし、これを聞いた他の参加者が、どちらの意見に説得力があるかを点数評価し、それを集計してまとめます。

参加者の多くはユニセフボランティアの皆さんです。ほとんどの方が①のテーマは「社会問題」、②のテーマは「反対」と予想していました。ところが、このように分かれて議論すると、最終の点数評価では、どちらが支持されてもおかしくない様な僅差になっていました。自分の考えとは違う立場で物事を見つめてみると、またいろいろな考えが引き出されていくのを感じました。

初体験の「ディベート」形式によるディスカッション、結果を見て、自分の意見(思い)を人に伝えるためにも、この様な形式の訓練が今後必要になると強く感じました。
(ボランティア 中田輝樹)



報告会

夏休みの一か月間ガーナに留学し、感じた思いを伝えてもらいました。

■ 高校生がアフリカからもらったもの

9/8(日) 鳥取県立人権ひろば21 ふらっと
講師：田口響生くん(青翔開智高校 2年)



映画上映会

■「バレンタイン〜掬」(NPO法人ACE制作) 上映会

9/21(土) 倉吉体育文化会館
鳥取県生協 中部エリア会との共催。



[会議]

■ 4/26(金) 第11回 役員会 (鳥取県福祉人材研修センター)

「ボランティア活動紹介/賛助会員について」

■ 6/13(木)～14(金) 学習講師研修会 (ユニセフハウス)



南スーダン現地活動報告、学習会の事例紹介等、今年も内容の濃い2日間でした。